

令和六年

五月二十六日(日)

十一時から

石見銀山

井戸

神社
例大祭

祝
社務所大修理完成

奉納神楽 13時～



演目「井戸公」
大屋神楽社中
◎雨天中止

いも殿様バザー

雨天決行 / 数に限りがございます

HIDAKA 11時～

- 花魁甘芋
- おいらんぱい
- 花魁いもパン

上野商店

- 芋けんぴ

平和亭

- そば
- 芋天ぷら
- 干し芋
- 芋けんぴ
- 冷やし焼き芋

いつもの栗まんじゅう

伝統野菜芋

おいらん たいはく
「花魁」「太白」について

井戸平左衛門が愛したであろう伝統野菜芋の「花魁」と「太白」。「花魁」は、白い身の皮ざしと中心だけが紫色の美しい品種で、三温糖のような滋味深い甘みとミルクィな風味。「太白」は、雪のように真っ白な身で、優しい甘さがあります。干し芋にすると、太白の持つ華やかな風味が際立ちます。

『井戸平左衛門正明の事績』

井戸公が大森代官に就任したのは享保十六年(一七三二)です。翌年の享保十七年には、全国的に大きな被害が広がり多くの餓死者を出した「享保の大飢饉」に遭遇します。井戸公は未曾有の大飢饉に際し、領民を飢餓から救うため即断即決の施策を次々に講じます。自らの財産や裕福な領民から募ったお金を資金にして米を購入したほか、領内の被害の状況を自ら検分して歩き被害の状況に応じて年貢を免除または減免、最後には幕府の許可を待たずに代官所の米蔵を開いて領民を救いました。

また、飢饉を予見していたかのように、米や麦が凶作の年でも領民が飢えに苦しむことがないように、薩摩で栽培が普及していたサツマイモ(甘藷)を導入して栽培を奨励しました。以後、石見の国からは飢饉による餓死者が出ることがなくなりました。

数々の善政、中でもサツマイモの導入によって親から子へ、子から孫へと命を繋ぐことができた後世の人々は、井戸公を「いも代官」と親しみを込めて慕い、毎年各地の寺院などで芋法事を営んで遺徳に感謝し、また、村々のあちこちに感謝を表す頌徳碑を建立しました。頌徳碑の建立は島根県だけでなく鳥取県、広島県、岡山県にも広がり、令和四年度末で**全五百三十三基**という膨大な数の頌徳碑が確認されています。

『井戸神社創建・移転・再建』

明治十二年、地元大森を中心に井戸代官を祀る神社が創立され、明治二十三年には井戸公の崇高な事蹟を知った枢密顧問官の**勝海舟**が井戸神社の扁額の「井戸神社」の文字を揮毫しています。

後年、神社前の道路の拡幅工事によって神社の敷地が狭くなり、移転、再建の必要に迫られました。井戸公を崇敬する長久村(現大田市)衆議院議員、**恒松隆慶氏**が明治四十四年に興復会長に就任して精力的に浄財を募り、**桂太郎**総理大臣やほとんどの大臣をはじめ、中央政界から多くの浄財が寄せられました。後日、総理大臣になった原敬氏、犬養毅氏、若槻礼次郎氏なども浄財を寄せています。また、財界にも働きかけており、日本資本主義の父と称され、その肖像が令和六年度から一万円札にお目見えする**渋沢一氏**、大倉喜八郎氏、藤田伝三郎氏をはじめ多くの実業家からも浄財が寄せられるなど、まさに**全国的な注目の中で再建が図られ、大正五年に現在の場所に完成しました。**

引き続き、社殿修復の寄付金を募集しております。どうぞよろしくお願い致します。